

川崎市小学校教育研究会

川崎市小学校教育研究会役員並びに組織分担表

川崎市立小学校教育研究会 役員・顧問

会 長	堀 江 広 志	浅 田 小 学 校
副 会 長	狛 倉 正 樹	東 生 田 小 学 校
副 会 長	長 嶺 祐 介	百 合 丘 小 学 校
書 記	西 田 裕 子	三 田 小 学 校
書 記	栃 木 達 也	東 菅 小 学 校
書 記	渡 部 陽 子	南 加 瀬 小 学 校
会 計	袴 田 深 雪	栗 木 台 小 学 校
会 計	藤 原 由 布 子	犬 蔵 小 学 校
会 計	芦 刈 竜 哉	金 程 小 学 校
会 計 監 査	朝 比 奈 浩	片 平 小 学 校
会 計 監 査	小 川 幸	夢 見 ヶ 崎 小 学 校
顧 問	勝 俣 久 美 子	下 平 間 小 学 校
顧 問	吾 妻 典 子	有 馬 小 学 校
顧 問	小 林 勝 弘	西 菅 小 学 校
特 別 顧 問	藤 中 大 洋	菅 生 小 学 校
特 別 顧 問	滝 澤 純 子	大 戸 小 学 校
特 別 顧 問	松 澤 ゆ かり	久 本 小 学 校
特 別 顧 問	後 藤 美 智 子	川 中 島 小 学 校
担当 (川崎市教育委員会事務局)	國 廣 隆 之	学校教育課 区・教育担当課長
担当 (川崎市総合教育センター)	鶴 木 朋 和	カリキュラムセンター室長

川崎市立小学校教育研究会 組織

研究会名 (◎会長)	川 崎 区	幸 区	中 原 区
国 語 教 育	関口 真弓	◎小川 幸	吉村あかね
社 会 科 教 育	楠田 典子	◎滝口 太志	伊藤 和江
算 数 教 育	佐藤 茂樹	安藤 勉 石塚 全	小林 達也
理 科 教 育	上野 和美		◎井上 清一 山田 朗生 近藤由紀子
生 活 科・ 総 合 的 な 学 習 の 時 間 教 育	川村 雅昭	小碓 早苗	◎梶 康子 滝澤 純子 五十嵐礼子
音 楽 教 育	五十嵐 聡		
図 画 工 作 科	西村 和恵		◎緑川 葉子
家 庭 科 教 育			
体 育	山川 佳美 仙田 清孝 今野 忠	渡部 陽子 滝澤慎一郎 中野 正明	
道 徳 教 育	◎紙屋智子		辰口 直美
特 別 活 動			横山 里恵
学 級 経 営	◎結城 俊一	勝俣久美子	陸田由喜子 二川 義明 小久保裕之 安斎 陽子
特 別 支 援 教 育	北 良介	本田 明子 筒井 愛子	◎松原 晴美
外 国 語・ 国 際 教 育	◎坂東 修		
情 報 教 育	堀江 広志 山口 嘉徳 治田 直美	柴田 薫 宝谷 拓之 田中 康子	清水 弘彦
児 童 文 化	◎若狭 美加		
養 護		後藤美智子	◎菊地美和子
学 校 栄 養	◎今野 忠		
学 校 事 務			

令和7（2025）年度神奈川県小学校教育研究会 川崎市役員名簿

役 職	氏 名	所 属 校	所属電話	職
副 会 長	西 田 裕 子	三 田 小 学 校	900-1986	書 記
中央大会運営委員長	狛 倉 正 樹	東 生 田 小 学 校	911-4925	副 会 長
中央大会書記	長 嶺 祐 介	百 合 丘 小 学 校	966-3550	副 会 長
中央大会会計	袴 田 深 雪	栗 木 台 小 学 校	987-4633	会 計
役 員				
役 職	氏 名	所 属 校	所属電話	職
理 事・地区会長	堀 江 広 志	浅 田 小 学 校	333-5966	会 長
理 事	西 田 裕 子	三 田 小 学 校	900-1986	書 記
理 事	狛 倉 正 樹	東 生 田 小 学 校	911-4925	副 会 長
理 事	長 嶺 祐 介	百 合 丘 小 学 校	966-3550	副 会 長
理 事	袴 田 深 雪	栗 木 台 小 学 校	987-4633	会 計
研 究 部 長				
県 研 究 部 名	氏 名	所 属 校	所属電話	職
特 別 活 動	齊 野 保 史	久 末 小 学 校	777-6533	部 長
特 別 支 援	北 良 介	大 師 小 学 校	288-2392	部 長
図 書 館	青 木 あゆ子	稲 田 小 学 校	911-7041	部 長
養 護	後 藤 美智子	川 中 島 小 学 校	288-3167	部 長
事 務	朝 比 奈 浩	片 平 小 学 校	987-6367	部 長
栄 養	今 野 忠	東 門 前 小 学 校	299-2065	部 長

高 津 区	宮 前 区	多 摩 区	麻 生 区
小林 智子	五十嵐 忍		井上 恵子
南谷 隆行	中川 正彦	小林 勝弘 今 広道	袴田 深雪
	藤中 大洋 ◎神宮 祥恵 山本 直	羽深 東	長嶺 祐介 鈴木みどり
押田 春美 米倉 竜司 大泉 文人	菅原 隆宏 田中 克義		芦刈 竜哉 後藤 智春
	西村勇一郎 小林 美代	宮原千恵子	中西 憲子
◎近清えり子		西田 裕子	
	丸尾 明彦 藤原由布子		
◎中尾由美子	森島 美子		
鶴見 悦子 飯塚 正行	松沢 隆	◎狛倉 正樹 棟居 謙 江良 真一	大曾根 実 福岡 雄二
松澤ゆかり			柴田 雅之
◎齊野 保史			小堤 紀子
平井 育子 栃木 彰子	吾妻 典子	富谷 千春 田中亜希子	末武由布子
高木 栄二 吉野 晶子	伊藤 肇	松浦 徹	
		首藤 弘明	
	秋山 直子	◎栃木 達也 青木あゆ子	樋口 彰 齊野 裕子
			支倉 圭太
		江良 真一	
		江良 真一	◎朝比奈 浩

令和7年度川崎市小学校教育研究会活動方針

予測困難な社会を自立的に生きる子どもたちを育む小学校教育の創造 ～学習や生活の出来事に対して「見方・考え方」を働かせて、考えることができる子どもの育成～

現行の学習指導要領には、その着実な実施を通して「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」と示されている。

教育課程の編成・実施に当たっては、児童生徒が学校を卒業し社会に出た後も見通した上で、児童生徒や学校、地域の実態に即し、学校教育全体や各教科の指導を通して育成を目指す資質・能力を明確にすることや、各学校の教育目標を設定することが求められている。それらを実現するために必要な各教科等の教育の内容について、教科等横断的な視点をもちつつ、学年相互の関連を図りながら組織する必要がある。さらに、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことや、「個別最適な学び」と「協働的な学び」それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが必要とされている。

昨年度、新型コロナウイルス感染症が5類になり、従来の教育活動を見直しながら取り組んでいる。今後再びこのような世界的な感染症が流行することも十分に在り得ることも含め、大規模自然災害の発生や「持続可能な開発目標（SDGs）」など、社会を取り巻く環境は予測できないほど急激に変化をしていることを念頭に置かなくてはならない。

このような中、川崎市小学校教育研究会（略称：小教研）は発足以来71年間真摯に研究と実践を重ね、川崎の小学校教育の充実・発展を目指してきた。昨年度は、19研究会、3900名を超える会員とともに、各研究会から学習指導要領の趣旨を踏まえた授業実践や子どもたちの学習の成果を発信し続けた。採用5年目未満のまだ経験の浅い教員が各学校に多く所属していることから、川崎市小学校教職員の底上げを図るべく、授業力の向上に力点を置き、常任委員授業研究会、地区授業研究会、研修会などを開催した。さらに、各学校の授業研究会に講師として赴き、指導助言に従事した。

また、GIGA 端末を活用したオンラインでの研修・研究活動を実施したり、学習における GIGA 端末の有効な利用法を求め創意工夫しながら実践を重ねたりしてきた。各研究会の研究や実践を進め、その内容を全ての会員と共有していくにあたり、GIGA 端末の効果的な活用は欠かせないものとなっている。小教研大会はその象徴として、教育会館でオンラインによる開催を行った。かわさき GIGA スクール構想に基づく授業改善の推進によって、各教科等の特質に応じた見方、考え方を働かせた授業実践は、各学校の日々の授業を支えるだろう。

本市においては、今年度「第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン」の第3期実施計画の3年目を迎える。特に基本政策Ⅰ「人間としての在り方生き方の軸をつくる」基本政策Ⅱ「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばす」については、本研究会の活動方針「予測困難な社会を自立的に生きる子どもたちを育む小学校教育の創造」を目指した研究・研修活動により、推進していかなくてはならない。

以上の考えに立ち、令和6年度は、次の研究活動を小教研の重点とする。

1. 研究と実践

- (1) かわさき教育プランと学習指導要領の理念の実現に向けた教育課程編成と授業づくりの推進
 - ①学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究・研修の充実
 - ・育成すべき資質・能力の明確化したうえでの授業実践、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善やカリキュラムマネジメントの推進等
 - ②学習指導要領の趣旨を踏まえた日常の授業に生きる指導と評価の研究・研修の充実
 - ・川崎市学習状況調査の結果の活用推進
 - ③SDGs や脱炭素社会、Society5.0 時代に向けた持続可能な社会の担い手を育成するための授業実践とその発信
- (2) かわさき GIGA スクール構想に基づく授業改善の推進
 - ①かわさき GIGA スクール構想ステップ3を踏まえた一人一台の PC 環境を生かした授業実践とその共有
- (3) 「川崎市教職員育成指標」に基づいた教職員の育成とそれを支える教職員の研究・研修体制の構築
 - ①初任者をはじめとした各ステージの教職員のニーズに合った研究・研修の工夫
 - ②働き方改革の視点から活動を重点化・スリム化し、参加しやすい研究会活動の実現

2. 運営の改善

- (1) 創意工夫ある小教研活動の企画運営
 - ①授業研究会や研修会の在り方
 - ②研究会相互の情報共有
- (2) 各学校の柔軟な教育課程編成のための小教研に関連した全市的行事等の整理と連携
 - ①連合行事や各種作品展の在り方についての検討
 - ②研究会主催行事等についての確認
- (3) かわさき GIGA スクール構想における教職員の GIGA 端末を活用した各研究会・研修会・企画会議及び運営会議等の運営の工夫

3. 関係諸機関との連携の検討と整理から今後の社会を見据えた組織づくり

- (1) 川崎市教育委員会事務局、川崎市立小学校長会、神奈川県小学校教育研究会等関係諸機関とのよりよい連携・協力のための活動の整理
 - ①川崎市立小学校長会とのさらなる連携と校長会活動起草方針と連動した役割分担
 - ②教育委員会事務局との連携事業の整理と充実
 - ・かわさき教育プランの基本理念及び基本目標を踏まえた児童に身に付けさせたい資質・能力の育成
 - ・働き方改革の視点から連携事業の見直しとスリム化の検討

川崎市小学校教育研究会研修会報告

「かわさき GIGA スクール構想実現に向けて ～管理職が知って得する GIGA 端末活用講座Ⅲ」

1 研修日時・場所

令和7年8月21日（木）14時～16時 教育会館大会議室（参集）

2 研修講師

川崎市総合教育センター情報・視聴覚センター指導主事 4名

今指導主事 中尾指導主事 榊原指導主事 福山指導主事

3 参加者

市内小学校長 約80名

4 研修内容

14時～ かわさき GIGA スクール構想～GSL に伝えている事

14時10分～ 市内好事例紹介～リーディング DX 校の取組～

- ①今年度のリーディング DX 校について
- ②南河原小
- ③新小倉小

14時50分～ Google for Education Plus の校務活用操作研修

- ①校務活用～校長編～
 - (1) 生成 AI について
 - (2) 小教研研修_校務 DX に向けて
- ② Google サイト操作研修

15時50分～ 全体を通して質疑応答・Chat 入力

16時 終了

5 研修の成果

- ・ Google サイト作成へのハードル低下「専門的な職員がやるものだと思っていたが、自分でもできると思えた」「仕組み（秘密）がわかって自信がついた」という声が多かった。校長自身が「入口」に立てたことで、今後の職員との協働に意欲を示す意見が多く見られた。
- ・ 実技・参集形式の有効性「実際に操作することで理解できた」「わからない時に指導主事にすぐ聞ける安心感があった」など、体験型かつ対面形式であることへの評価が高い。
- ・ 管理職としての意識変容「管理職が使ってこそ学校に根付く」「推進校の事例を見て目が覚めた」など、最新の情報に触れることで、DX 推進におけるリーダーシップの重要性を再認識する機会となった。

6 次年度以降に期待されるテーマ

- ・ GIGA 研修の継続（パートⅣ）「来年も継続してほしい」という声が多く、シリーズ化が強く望まれている。
- ・ 生成 AI の具体的な活用法 最新技術である生成 AI をどのように業務や教育に活かすか、より踏み込んだ内容への関心が高まっている。

川崎市小学校教育研究会会長 堀江 広志